

伊勢市観光振興基本計画推進委員会 令和元年度第1回会議 議事録要旨

日 時：令和元年7月26日（金）14:00～15:45

場 所：伊勢市役所本庁舎 東館 会議室5-2

出席者：【委員】富本、中村（聖）、中村（基）、音羽、中村（洋）、三村、岡田、小崎、
奥田、前田、山本（武）、高橋 [敬称略、17名中12名出席]

【事務局】須崎、富岡、小林、東端、畑、太田

1 あいさつ

○委員17名のうち出席者12名で、過半数が出席していることから、「伊勢市観光振興基本計画推進委員会規則」第4条第2項の規定により、本会議が有効に成立していることを確認。

2 委員長及び副委員長の選任、検証部会員の指名

○委員長に鈴鹿大学の富本真理子委員、副委員長に公益社団法人伊勢市観光協会の中村基記委員を選任。

○検証部会員として、8名（外宮参道発展会の山本武士委員、公益社団法人伊勢市観光協会の中村基記委員、伊勢商工会議所の三浦徹委員、伊勢小俣町商工会の竹内厚史委員、神宮司庁の音羽悟委員、二見町旅館組合の濱千代裕章委員、伊勢おほらい町会議の前田世利子委員、NPO法人伊勢河崎まちづくり衆の高橋徹委員）を指名。

○検証部会での議決が委員会の議決となることを確認。

3 伊勢市観光振興基本計画の取組の検証について

○資料「伊勢市観光振興基本計画の検証結果【平成31年3月】」について、事務局から説明。

○観光客の満足度、入込客数等について、委員会から意見が出された。

→別紙参照（2ページ）

4 令和元年度の主な取組について

○資料「伊勢市観光入込客数月計」、「参宮バス 乗車実績」、「H31/R1 ゴールデンウィーク期間中の神宮参拝者数」、「伊勢市観光客実態調査の結果概要」、「平成30年伊勢市外国人観光客実態調査 集計結果」、「令和元年度 主な取組」について、事務局から説明。

○路線バス、参宮バス等について、委員から意見が出された。

→別紙参照（2～3ページ）

5 その他（意見交換 ほか）

○タクシーやバスの運行状況、改元の効果等について、委員から意見が出された。

→別紙参照（3ページ）

（以上）

(別紙) 会議で出た意見

3 伊勢市観光振興基本計画の取組の検証について

【観光客の満足度】

- 観光客の宿泊施設に対する満足度の低下が大きいのが気にかかる。
- 宿泊施設に対する満足度の低下の要因は何であるのか。接客なのか、食事なのか、コストなのかを明らかにし、対処していく必要がある。
⇒<事務局>近年、宿泊単価が低下している。宿泊価格が低い施設を利用した方は、宿泊価格が高い施設を利用した方と比べると、満足度を低く感じる一般的な傾向があり、満足度の低下につながっている面があると考えられる。
- 旅館組合に入ってくる情報として、市内宿泊施設に対する苦情を耳にすることもある。旅館組合からそのような施設に指導しても、あまり効果が無いと感じている。
⇒<事務局>市へ宿泊施設や店舗に関する苦情をいただいた場合、当該施設・店舗に内容を伝えるようにしている。
- 過去の色々な調査からも、宿泊の価格と満足度は比例する傾向があると考えられる。
⇒<事務局>伊勢志摩地域で見ると、伊勢市よりも鳥羽市や志摩市の方がベッド数は多いが、伊勢市内の宿泊者の割合は高い。伊勢市内の宿泊施設は比較的安価で伊勢神宮にも近いので気軽に利用しやすいというメリットはあるが、満足度は低くなりがちである。

【入込客数】

- 神宮参拝者数は減少した一方で、他の施設への訪問者数は増加したという分析があったが、具体的にどの施設への訪問者数が増加したのかが明確になると良い。また、入込客数は団体客の増減の影響を受けやすいので、内宮前駐車場における観光バス駐車台数等で、団体客の動向も分かると良い。
⇒<事務局>各施設の訪問者数は月計統計で、訪問割合は四半期毎の観光客実態調査で計測を行っており、実態把握を行っている。団体客の動向把握としては、観光バス台数も考慮したい。
- データの分析だけで終わらず、具体的な施策を打っていくことが重要である。

4 令和元年度の主な取組について

【路線バス】

- 外宮から内宮を循環するバスは約 10 分間隔で運行しており、これ以上増やすのは難しいと思う。バス 1 台あたりの乗車人数が倍増する 2 輻連接バスの導入により、待ち時間短縮、バス停減による乗車時間短縮につながれば、交通手段に対する満足度の向上が期待できる。

【参宮バス】

- 参宮バスの 1 便あたり平均乗車人数が今年度も増加しているが、平均 9 人は多いと言っているのか。
⇒<事務局>外宮から内宮を循環するバスに比べると少ないが、1 便で 20 人以上が乗車する時間帯もあり、かなり高い水準になってきたと評価している。
- 「参宮バス」という名称では金剛證寺まで行けることがイメージしづらいと感じる。別の名称も検討してはどうか。また、PRはどのようにしているか。
- 二見、外宮、内宮、朝熊山へと周遊するコースの認知度が向上して、金剛證寺を訪問する人は増えていると思う。このルートを周遊できる交通を整備できないか。
⇒<事務局>元々、参宮バスは二見から外宮、内宮から朝熊山の 2 ルートで運行して

いたが、二見ルートは利用者が少なかったため平成 26 年度で廃止し、現在は近鉄五十鈴川駅から朝熊山へ行くスカイラインルートのみ運行している。そろそろ名称変更を検討して良い時期かもしれない。PRはバス車内や観光案内所でポスター掲出、首都圏ほか遠隔地での観光イベントでチラシ配布等を行っている。

- お伊勢さん観光案内人が参宮バスに乗車してガイドを行ったり、昔の旅人のルートを再現したりすれば、参宮バスの価値がもっと上がると思う。

5 その他（意見交換 ほか）

- お伊勢さん観光案内人ガイド付きのタクシー周遊プランが人気である。
- タクシー乗務員が不足している。タクシーやバスの乗務員の確保は今後ますます必要になる。
- 外宮から内宮を循環するバスは、土日祝や繁忙期には臨時の増便対応をしている。5 月からは近鉄企画切符の「伊勢神宮参宮きっぷ」でも二見方面や参宮バスが利用可能になり、それらの乗車数増加につながっている。サンアリーナでコンサート等が開催される日には、サンアリーナ方面のバスの乗車数も増える。
- 近鉄企画切符の販売は順調に伸びている。平成 30 年度は前年度比マイナスの傾向で進んでいたが、改元効果のおかげでマイナスが消えた。また、今年のGWの 10 連休は特に好調であった。年明けまでは改元のムードを引っ張りたい。近鉄では山崎まさよしさんをフィーチャーしたPRのほか、若い女性をターゲットにしたキャンペーンも展開している。
- 天皇皇后両陛下が 11 月に伊勢にお見えになる予定で、その後、令和初のお正月を迎えるなど、伊勢ではおめでたいムードが続く。
- 伊勢と伊勢志摩では状況が異なっている。伊勢では改元の効果を上手く受け止められている一方、鳥羽や志摩は苦戦している。しっかりとイメージ付けを行い、取組を展開していくべきである。
- 伊勢志摩サミットや改元の効果は自分の努力で得られたものではない。これに浮かれるのではなく、地域の資源を磨いて価値を上げていくこと、地域の人々が自力で稼げるようになることが大切である。その一つとして、伊勢本街道や伊勢御師をテーマに伊勢をPRするのも良いと考える。
- 計画策定の議論の中での共通認識として、ハード・ソフトの両面で適度な観光客数は年間 800 万人程度というのがあった。今年の 1 月 3 日や 5 月 1 日は、おはらい町で歩行者の通行が一時できなくなるほどキャパシティを超過した。お客さんが多過ぎると受け入れ側の余裕が無くなってしまう。一方、例年 7 月は観光客が少ない時期で、おはらい町や内宮前B駐車場は閑散とする日もある。余裕がある時期・場所にお客さんを呼び込める取組ができると良い。
- 今年は改元の年で、どうしてもインバウンドは目立たない。5 月 1 日は例外的な参拝者の多さで、御朱印を求める方も多かった。11 月も、たくさんの方が訪れると予想される。
- 日本人観光客に対しても、外国人観光客に対しても、受け入れ側として多様性のある選択肢を用意しておくことが大切である。多様な価値の体験は喜ばれる。